

特別展「山陽新幹線50年展」における体験型展示の事例

岩村和政・山田稔

**Special Exhibition '50 Years of the Sanyo Shinkansen'
and Examples of Interactive Exhibits**

Kazumasa Iwamura, Minoru Yamada

山口県立山口博物館研究報告

第52号(2026年3月)別刷

Reprinted from

BULLETIN OF THE YAMAGUCHI MUSEUM

No.52(March 2026)

特別展「山陽新幹線50年展」における体験型展示の事例

岩村 和政¹⁾・山田 稔²⁾

Special Exhibition '50 Years of the Sanyo Shinkansen' and Examples of Interactive Exhibits

Kazumasa IWAMURA¹⁾, Minoru YAMADA²⁾

1 はじめに

当館の令和7年度特別展「山陽新幹線50年展」は、西日本旅客鉄道株式会社の協力のもと、京都鉄道博物館と共催で企画を進めたものである。展示は、山陽新幹線の歴史を振り返るだけでなく、観覧者参加の体験型展示や新幹線製造に深く関わっている県内企業の紹介も行った。山陽新幹線の歴史と新幹線電車の特長をゆかりの資料でたどり、「新幹線に乗って旅に行きたい」と思う気持ちになれるような効果を狙ったところ、多くの観覧者から好評を得た。

本稿は、体験型展示の企画担当者としての趣旨や概要をまとめるとともに、アンケート結果からその評価を整理したものである。

2 各展示の趣旨と構成

本展は、京都鉄道博物館との共催部分の展示をベースに、当館独自の企画として体験型展示を盛り込んだ内容とした。また、会場内の装飾には新山口統括駅の協力により、駅構内の掲示物を忠実に模した案内表示を掲示し、旅に出る際の高揚感を高める雰囲気づくりを行った(図1)。

(1) 特別展の企画概要

本展は5章で構成し、3章までは京都鉄道博物館と共通の内容となっている。

・1章「新幹線、伸びる！ -山陽新幹線の誕生-」

敷設工事から開業までのあゆみを物語る資料を展示。「夢の超特急」とよばれた新幹線のはじまりを時代背景とともに紹介し、その後の歴史をポスター、記念品、記念切符を中心に、山陽新幹線全線開通までのドラマをゆかりの資料で紹介した。



図1 新山口駅を模して誘導路等を設置

1) 山口県立山口博物館(天文・特別展企画担当)

2) 山口県立山口博物館(歴史・特別展企画副担当)

・ 2章「新幹線、走る！－山陽新幹線を彩った車両たち－」

500系新幹線誕生に向けた試験車両WIN350（500系900番台）の資料を含む、初代0系からN700系までの特長を6つのコーナーに分けて紹介した。

・ 3章「新幹線、楽しむ！－お楽しみの回想録－」

新幹線の中の楽しみの一つ、駅弁、食堂車のメニューやレシピ、車内販売を紹介。現場で働く人たちのインタビューもパネルで紹介した。

・ 4章「新幹線とやまぐち！－新幹線の製造にかかわっている県内企業の紹介－」

・ 5章「新幹線を体験しよう！」

(2) 体験型展示の概要

体験型企画として、以下の内容を実施した。

- ・ 新幹線運転席から撮影した「イマーシブムービー（没入感のある映像）」（図2）
- ・ 「Nゲージジオラマ操作体験」（図3）
- ・ 「おしごと体験会」（表1、図4～図6）
- ・ 「ドクターイエロー乗車体験」（図7）
- ・ 「新幹線の思い出を貼ろう！」コーナー（図8）

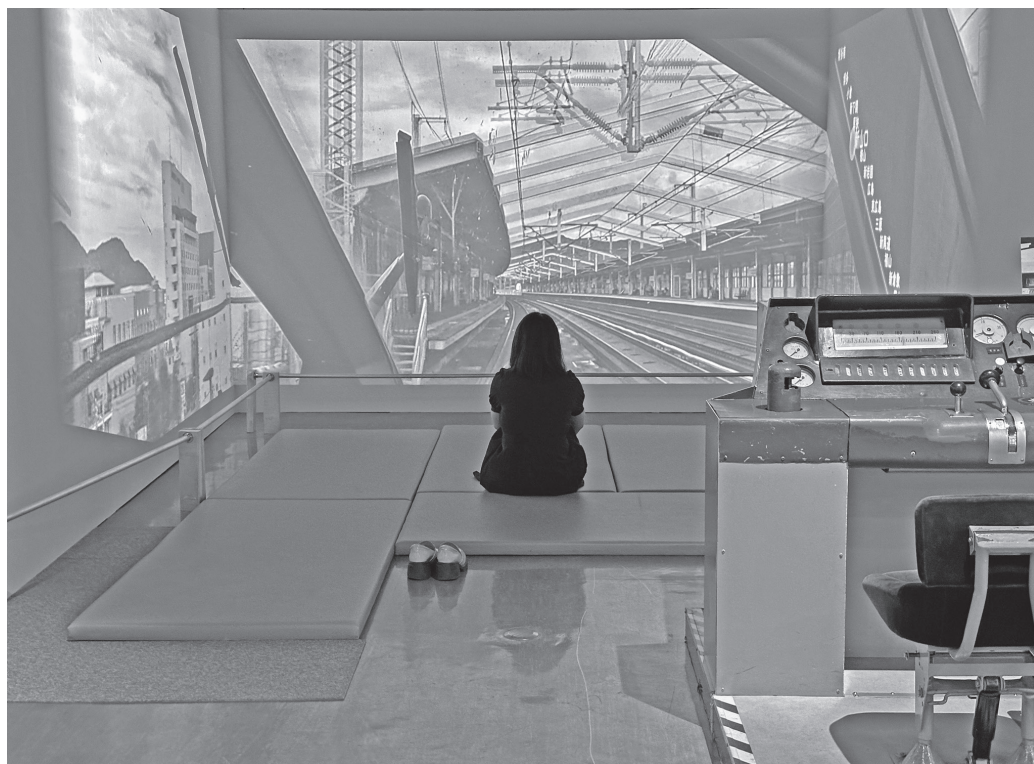


図2 イマーシブムービー

500系新幹線運転席から複数台のカメラで撮影した360度映像を、壁面3面に3台の4Kプロジェクターで投映した。新大阪～博多南駅間の映像を鑑賞時間や人員入れ替えを考慮して22分に編集した。前・左右の景色を楽しむことができるため、新幹線のすれ違いや車窓から見える景色、自宅を探すなど、観覧者は思い思いに映像を楽しんでいた。手前に0系新幹線運転席を設置し、座って運転士気分を味わえる趣向とした。

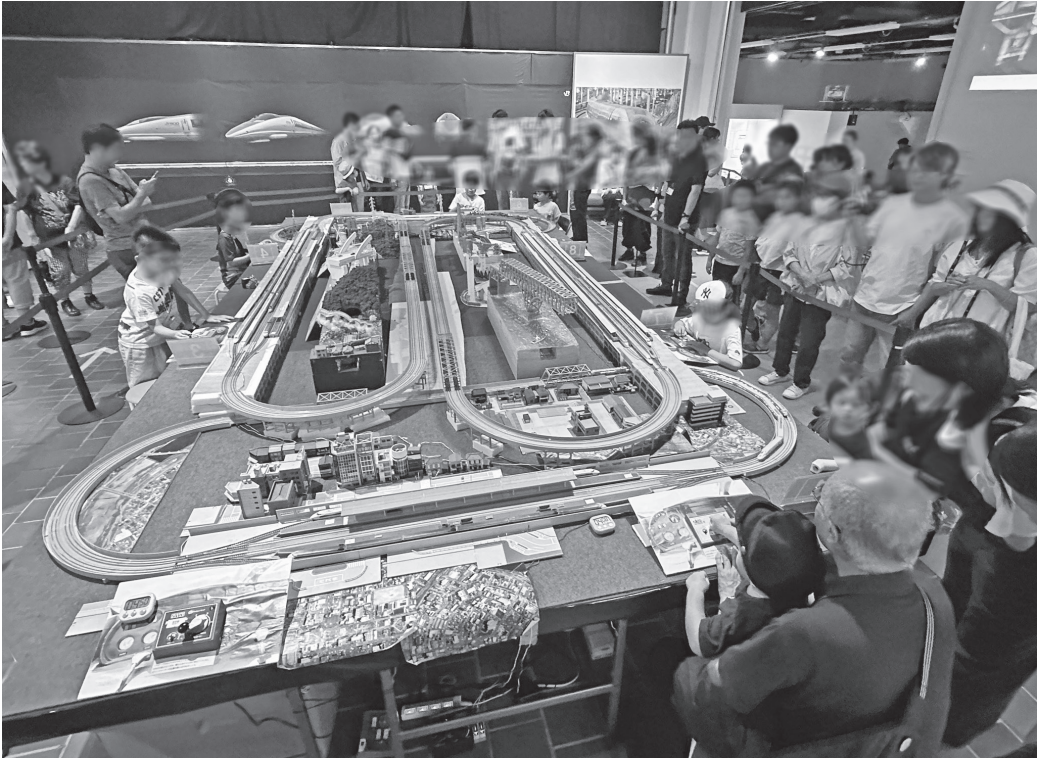


図3 Nゲージジオラマ操作体験(幅2.7×奥行5.4m、8レーン)

J R西日本保有の0系～N700系の新幹線編成を忠実に再現した車両を走行させた。子どもから大人まで楽しむことができ、体験者以外も周囲から走行の様子や県内の景勝地を再現したジオラマを楽しめた。子どもたちは、駅に新幹線を上手に止めることにこだわっていた。

「おしごと体験会」は、新山口統括駅とジェイアール西日本フードサービスネットの協力のもと、表1の職種・内容で実施した。予約は不要とし、希望者がその場に並び順次体験できる形式とした。鉄道に興味・関心のある子どもが体験会を目的に来場し、質問したり体験したりしながら長時間熱心に取り組む姿も見られた。企業側の仕事内容周知と、鉄道の仕事に興味を持つ子どもたちとの橋渡しとなり、良いキャリア教育の場として機能した。

表1 おしごと体験会の職種と体験内容

職種	1回目	2回目	体験内容
駅員	7月24日(木)	-	駅の仕事について学び、きっぷの販売などの営業活動について学んだ。
乗務員	7月26日(土)	8月20日(水)	運転士や車掌さんから仕事内容を学び、山口線シミュレーターで運転を疑似体験。ブレーキハンドルなど7つ道具に触れる体験をした。
保線区電気区	7月27日(日)	8月28日(木)	線路の安全を保つ仕事について学び、レールの点検や架線の切断などを体験した。
パーサー	8月6日(水)	8月24日(日)	車内販売について仕事内容やマナーなどを学び、商品販売(バーコードスキャン)を体験した。子ども用制服を着て記念写真の撮影も実施。

体験会では、JR西日本の現役の職員が直接指導し、子どもだけでなく大人にとっても貴重な学びの機会となった。制服の試着は未就学児に人気が高く、道具類の操作は小学生が興味を示していた。大人も初めて知る内容が多く、熱心に話を聞く姿が印象的であった(図4, 5, 6)。



図4 おしごと体験会の様子(パーサー)
未就学児に人気が高く、制服着用や商品のバーコードスキャンが人気を集めた。



図5 おしごと体験会の様子(保線区)



図6 おしごと体験会の様子(左より運転士、山口線運転シミュレーター、駅員の仕事)
現役の運転士や駅員から使っている道具について教えてもらい、時刻表の見方や運転シミュレーターで運転方法を熱心に習っていた。また、職業に就くためにどのような勉強が必要か、資格の取得等について質問していた。

県内高校生の取組として、萩商工高等学校の課題研究で取り組まれている「山陰本線の利活用推進プロジェクト」を紹介した。その一環として作成されたバッテリー走行のドクターイエローを借用し、乗車体験として展示した(図7)。

「新幹線の思い出を貼ろう!」では、観覧者に新幹線にまつわる思い出を付箋に書いて貼ってもらう企画。準備段階で人々が新幹線の思い出を熱く語る場面が多く見られたことから、この企画を実施した。壁面には毎日多くの思い出が貼られた。



図7 ドクターイエロー乗車体験
(小学生以下、4名乗車)



図8 思い出を貼ろう！コーナーの様子
(毎日たくさんの付箋が貼られていった)

3 アンケート結果及び考察

特別展期間を通じてアンケートおよび「新幹線の思い出を貼ろう！」コーナーに貼られた付箋を回収し、分析を行った。「おしごと体験会」、「Nゲージジオラマ操作体験」、「ドクターイエロー乗車体験」については、「よかった」「楽しかった」といった肯定的な意見が大半を占めていた。

(1) 「新幹線の思い出を貼ろう！」コーナーから読み取れる新幹線への思い

観覧者が付箋に書いた内容を集計すると、新幹線に対する思い出や感情が多様に表れていた。約2,500通の投稿のうち、多くが子どもによる丁寧なイラストであった。イラスト以外の文章を分類し、内容をまとめた結果が表2,3である。

表2 自由記述の分類結果(上位)

分類	割合	内容
〇〇へ行った／乗った、見た	14.8%	具体の乗車・来訪体験や目的地の記述が最多
「ありがとう」などの鉄道愛	13.0%	新幹線やJRへの感謝・愛着の声
新幹線について	11.8%	速度・快適性・技術への評価
〇〇へ行きたい／乗りたい希望	11.0%	今後の乗車・旅行希望
特別展の感想	10.7%	展示が満足・ジオラマ操作体験の楽しさ等
旅行などの思い出・感想	10.2%	家族旅行・修学旅行の回想
JRへのご意見・感謝	7.9%	運行・サービスへの期待や改善要望
イラスト	多数	新幹線のイラストが中心

表3 横断的なキーワード傾向

キーワード	内容
恋愛・家族の物語	遠距離恋愛、家族旅行、親子三世代の記憶
ドクターイエロー	「また会いたい」「大好き」等
速度／快適	「速い」「快適」
500系	「カッコいい」「残してほしい」
コラボ列車（キティ／ワンピース）	外装・内装とも高評価
食堂車・ビュッフェ懐古	「復活希望」の声
修学旅行	初めて乗った、乗降練習の思い出
車内販売	固いアイス、冷凍ミカン、「復活希望」の声

イラストを除く約1,000通の投稿は、実体験に基づく「乗った・見た」の具体的回想と、新幹線そのものへの敬愛・感謝の2つが主流であった。家族や恋人、友人と結びついた“人生の節目の乗車”が多数を占め、修学旅行や帰省、プロポーズ、通学・通勤など時間を越えて個人史と新幹線史が重なる様子が見て取れる。新幹線の象徴的存在はドクターイエローと500系で、「また会いたい」「残してほしい」という保存・継承志向が強く、キティ新幹線やワンピース新幹線などのコラボ列車は、乗車意欲を高める“きっかけ”として機能している。一方で、食堂車・車内販売への懐古や復活要望、みどりの窓口の必要性などサービス面の改善提案も一定数見られた。展示に関して「ドクターイエロー乗車体験」「Nゲージジオラマ操作体験」への満足度が高く、体験型・参与型の企画が思い出に残ったことがうかがわれる。

この「新幹線の思い出を貼ろう！」コーナーは、来館者が老若男女の思い出を読みながら共感し、自身の過去と照らし合わせることで懐かしい気持ちに浸る場を提供した。その結果、展示全体を良い印象のまま見終えることができ、本特別展への満足度向上につながったと考えられる。総じて、投稿の多くが過去の回想や感謝で、新幹線は「速く・快適」な移動手段という存在を超えた世代をつなぐ記憶装置として機能しており、今後も“物語を紡ぐ場”として新幹線は思い出づくりの一助であり続けると考えられる。

(2) 特別展全体のアンケート結果と考察

特別展会場で実施したアンケートは、紙およびWebで回答が寄せられた。その中の自由記述から体験型展示の結果を記載する。回答者の多くは県内在住で（図9）、年齢層は子どもから大人まで幅広く分布していた（図10）。

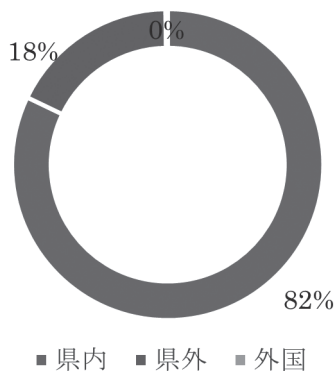


図9 アンケート回答者の居住地

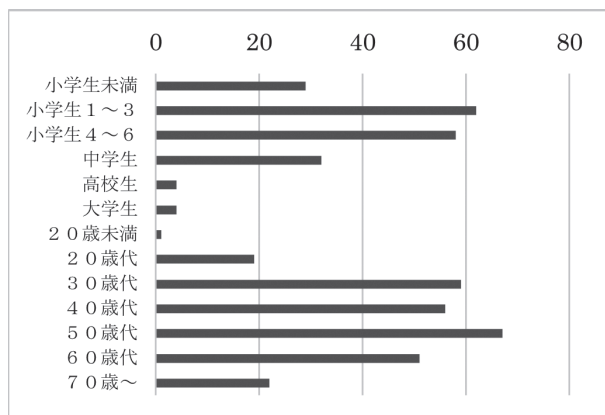


図10 アンケート回答者の年齢構成(単位：人)

自由記述のご意見は、以下の6つの類型に整理できた。

①体験型展示の評価

「Nゲージジオラマ操作体験」、「ドクターイエロー乗車」、「おしごと体験」など「自分で動かす・乗る」要素が高評価で、「何度も乗った」「最高」「また来たい」等の喜びの声が多数を占めた。

②スタッフ対応

「おしごと体験会」の講師や会場スタッフの声掛け、丁寧な説明・親切さへの賛辞が多く、安心感と満足度の向上につながった。

③資料・映像展示

運転席からの映像（新大阪～博多南）や写真資料、0系関連の展示が“懐かしさ”を喚起し、幅広い世代から支持された。

④世代・地域性

地元高校の取組「ドクターイエロー乗車体験」や県内企業の紹介、「新幹線の思い出を貼ろう！」コーナーが好評で、地域性と参加型の演出が効果的であった。親子3世代で楽しめたという記述も多かった。

⑤運営・環境面の課題

階段・トイレ・ベビーカーなどのバリアフリー、映像の見づらさ、順路の回遊性、駐車場、休館日など、運営面の指摘が散見された。

⑥物販・広報

子ども向け商品やローカルグッズ、図録の充実を求める声が多く寄せられた。全体評価は概ね高く、「良い・とても良い」が多数を占めた（図11）。

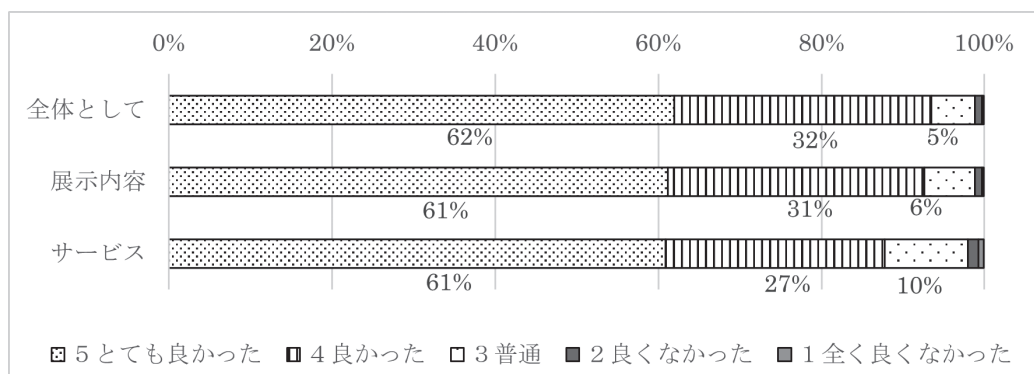


図11 特別展のアンケート結果

展示内容については、映像資料や0系関連の写真などが幅広い世代から好評で、親子三代で楽しめる点が評価の高さに直結している。一方、運営面では、動線・混雑に関する指摘もあり、体験型展示の人気ゆえの課題が浮き彫りになった。

本展覧会では、特に体験型要素とスタッフ対応が満足度のを左右するポイントであり、山口県と新幹線の関わりの地域性や世代を超えた共感が得られた点が大きな成果である。

おわりに

今回の特別展で記述された思い出や多数のアンケート結果を総合すると、本展示は新幹線という子どもから大人まで幅広い支持層に支えられただけでなく、当初の目的どおり「体験型の魅力ある企画」として評価されたと言える。

特に、Nゲージジオラマ操作体験・ドクターイエロー乗車体験・おしごと体験会など、来館者が能動的に参加できるプログラムの充実が、子どもを中心に「何度も遊びたい」「また来たい」という声につながった。「新幹線の思い出を貼ろう！」コーナーに観覧者が思い出を貼ることは、新たな展示が作り出され、他者の思いを共有することで過去の自分自身の記憶を再発見し、世代を超えて共感できたことが展示全体の満足度を強く押し上げた。

また、体験コーナーを支えるサポーターや外部講師の親切な声かけや丁寧な対応は、来館者の安心感と好印象につながっており、「アットホームで温かい雰囲気を感じた」「説明が分かりやすく、子どもが喜んでいて」といった評価が数多く寄せられた。おしごと体験会の企画は、新幹線業務等に携わる人々の仕事やサービス品質が来館者に伝わった好例である。体験型展示を取り入れた本展覧会では、当初の目的どおり大きな成果となったと考えられる。

最後にご多用の中、本特別展にご協力いただいた西日本旅客鉄道株式会社、京都鉄道博物館、ジェイアール西日本フードサービスネット、県内の新幹線製造に関わる企業ほか関係の皆様へ厚く感謝いたします。